

## 2011年度の企画展のご紹介

今年度もみどころたっぷりの様々な展覧会を企画しています。  
(所蔵品展の紹介は4ページをご覧ください。)

4月22日(金)– 6月19日(日)

### いもとようこ絵本原画展



『ないしょ』(『あいうえおのえほん』より) ©いもとようこ

お父さんも、お母さんも、そして子どもたちも、誰もが一度は見たことのある、あたたかくて優しい、いもとようこの絵本。和紙の貼り絵に着色するという独特的の技法によって生み出されたその柔らか

な画風は、親から子へ、世代を超えて愛され続けています。本展では、140作品に使われた約240点の絵本原画を一堂に展示します。原画ならではの魅力をお楽しみください。

#### 料金

一般800円/大高生600円/中学生以下無料/前売券(一般のみ)600円

10月22日(土)– 12月11日(日)

宮城県美術館・宇都宮美術館所蔵作品による

### クレーとカンディンスキーの時代 — 20世紀ドイツ語圏の絵画とデザイン —

「芸術は眼に見えるものを再現するのではなく、見えるようにする」と記したパウル・クレー[1879-1940]。『芸術における精神的なもの』を著し、非対象の絵画を開拓したヴァシリー・カンディンスキー[1866-1944]。二人の作品を中心に、ユーゲントシュティールから表現主義、そしてバウハウスまで、20世紀前半のドイツ語圏の美術の諸動向を展望します。この分野の収集で著名な宮城県美術館(今年度開館30周年)と宇都宮美術館(来年度開館15周年)の所蔵品によるものです。



W.カンディンスキー《商人たちの到着》1905年 宮城県美術館蔵  
P.クレー《三人のアラビア人》1915年 宇都宮美術館蔵

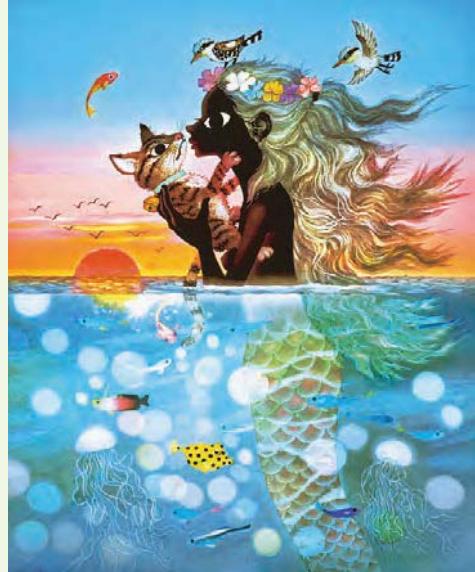
#### 料金

一般900円/大高生700円/中学生以下無料/前売券(一般のみ)700円

7月2日(土)– 10月10日(月・祝)

### 藤城清治 光と影のシンフォニー

日本における影絵の第一人者、藤城清治氏(1924年～)の展覧会が4年ぶりに新潟県に帰ってきます！87歳を迎えてなお、精力的に創作活動に向かい、独自の世界を切り開き続ける藤城清治。光と影が織りなすその幻想的な影絵の世界は、子どもから大人まで世代を超えた多くの人々に夢と希望、そして感動を与え続けています。今回の展覧会では代表的な影絵作品に加え、新潟で初めて紹介する近作や水彩画、油彩画など盛りだくさんの内容で藤城ワールドを存分にお楽しみいただきます。愛らしいこびとたちや動物たち、物語の世界に生きる少年少女たちが、メルヘンの世界へと皆さまをご案内します。4年前に見た方も今回初めて見る方も、さらに新しく豊かになつた夢の世界にきっと新鮮な感動を味わえることでしょう。光と影が奏でる美しいシンフォニーをどうぞご期待ください。



《夕陽の中の愛の奇跡》2004年 ©Seiji Fujishiro/HoriPro

#### 料金

一般1200円/大高生1000円/中学生以下無料/前売券(一般のみ)1000円

12月23日(金祝)– 2012年2月19日(日)

### 新潟の画家たち ~色と形を紡いで~

新潟県で生まれ育った画家の中には、中央で認められ活躍している画家がいます。また、県内にとどまりコツコツと独自の世界を築き一日置かれている画家もいます。この展覧会では、様々な活躍をする画家たちの中から、現在県内で最も認められている日本画家、洋画家をセレクトしてご紹介します。

#### 料金

一般700円/大高生500円/中学生以下無料/前売券(一般のみ)500円

ぬくもりとやさしさあふれる 絵本の世界へ

# いもとようこ 絵本原画展

4月22日(金) - 6月19日(日)



『だいすきなかあさん』

240点の原画を一堂に紹介。

大人から子供まで、幅広い世代から親しまれているいもとようこの絵本。日本の昔話『おむすびころりん』『つるのおんがえし』や、日本の名作『てぶくろをかいに』、世界の名作『青い鳥』『マツチラリの少女』、そしておなじみの『あかちゃんのためのえほん』シリーズや数々の創作絵本など、これまで出版された絵本は300タイトルにも及びます。本展では、140タイトルに使用された240点の原画を6つのコーナーに分けて展示します。



『3びきのこぶた』

## 原画ならではの魅力

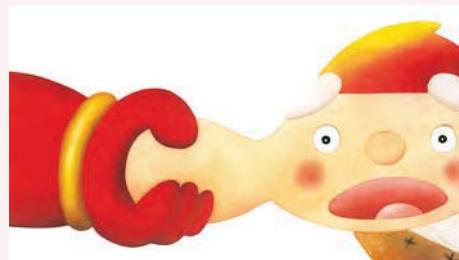
ぬくもりあふれるその柔らかな画風は、和紙の貼り絵に着色するという独特の技法によって生み出されています。原画ならではの魅力をじっくりとお楽しみください。

## 絵本やグッズの販売も充実

本展にあわせ、ミュージアムショップでは、たくさんの絵本はもちろんのこと、ポストカードやレターセットなど、様々なもとようこグッズも販売する予定です。



『こりすのおかあさん』



『こぶりじいさん』



『いっしんぼうし』

## いもとようこ プロフィール

兵庫県生まれ。金沢美術工芸大学油絵科卒業。

小学校教員を経て、デビュー作『ひとりぼっちのこねこ』で絵本の世界に入る。以来、独自の手法で描かれる繊細であたたかい貼り絵が生み出す作品は300冊を超え、子どもから大人まで多くのファンより支持を得ている。ボローニャ国際児童図書展では『ねこの絵本』(講談社)と『そばのはなさいたひ』(佼成出版社)でエルバ賞を、『いもとようこ うたの絵本1』(講談社)でグラフィック賞を3年連続受賞し、国際的にも高く評価されている。また10年間放映されている「いないいないばあ！」(NHK教育テレビ)の童謡アニメーションでも広く知られている。

©いもとようこ

## 万代島美術館

# ばんび のあゆみ 2010-2011

2010年度も万代島美術館の展覧会をたくさんの方が見に来てくださいました。ご覧になったみなさんがいたい声をご紹介します。

## 花鳥風月 —現代日本画にみる自然の美

2010年2月27日(土) - 4月11日(日)

- 展示作品の数が多く、ゆとりがあつて良かった。かつて観たものが多かったが、こうしたテーマで観ると作品の良さを知ることが出来た。来て良かったと思う。(70代男性)
- 作者の言葉が解説に含まれているものがあり、どのような思いで描いたのかを把握する事ができた。横山操の中央公論表紙絵が特に良かった。(20代女性)



## ジャポニスムと ナビ派の版画

2010年4月17日(土) - 5月23日(日)

- 《エッフェル塔36景》とドニの作品がとっても良かったです！美しかった！(30代女性)
- 最初は単調なものだと思っていたが、作風や色彩が様々あり、とても印象に残った。(30代男性)



## ピーターラビット®の生みの親 ピアトリクス・ポター™展

2010年6月4日(金) - 7月11日(日)

- 展示の方法などにも工夫が見られて、またそれぞれの作品の解説も分かりやすく丁寧で、とても良かったです。作品についてだけではなく、作者についても、深く知ることが出来ました。ぬりえも20年ぶり位にやってみましたが、とても良かったです。金曜夜8時まで、有り難いです。16:30~18:30まで時間を気にせず、ゆったりとした気分で過ごすことが出来ました。ありがとうございました。(30代女性)
- ピアトリクスピーターの人柄、人生が分かりやすく解説されていて実際の作品も見ることが出来、楽しく拝見しました。ポーターの内面・心の情熱が絵に表現されていて、私は感動せざるにはいられない。(40代男性)



## 彫刻家・藪内佐斗司展 動き出す彫刻たち

2010年7月24日(土) - 9月26日(日)

- とても楽しくエネルギーに溢れた展覧会でした。美術や工芸に触れる機会の少ない人们にも、親しみやすい空間作りだったと感じました。(20代女性)
- 期待以上に素晴らしかったです。写真OKというのが嬉しく、第二部で気に入ったものは撮らせていただきました。(20代男性)
- 今回の作品人気投票はおもしろいと思いました。他の人(子供から大人まで)の感想を知ることが出来て、楽しかったです。(50代女性)



## 物語の絵画

2010年  
10月9日(土) - 11月28日(日)

- 物語をテーマにした展示だけあり、解説が充実していた。普通の展示では、その作品の物語について分からずそのまま観ることが多かったので、面白かった。「絵を見る」より「考えて観る」感じで、いつも違う楽しみ方ができました♪(20代女性)
- 中世から現代まで幅広く取り扱っていて、飽きずに鑑賞できました。解説やセルフガイドも丁寧に作られていて、分かり易かったです！(30代男性)



## 岩合光昭写真展 ～ねこ～

2010年12月11日(土) - 2011年2月20日(日)

- 大変良かった。岩合さんの大ファンです。心がなごみました。もっともっと見て見たいかったです。何度も見たいと思いました。(50代女性)
- 写真的展覧会は今回初めて来たのですが、一枚でこれだけ心にうたえかける事ができるのかと感動しました。ねこは本当にかわいいです。(30代男性)



# イベントピックアップ

## ▶ピアトリクス・ポター展

### トーク「絵本でゆたかに！」

お話:大矢美智子さん(NIC木戸えほん館司書)

絵本の展覧会に関連し、ロビーにて「家庭での読み聞かせ」をテーマにお話しいただきました。親子の間での読み聞かせの重要性や効果的な方法、おすすめ絵本など、子どもと絵本を愛してやまない大矢さんは、熱を込めて語ってくださいました。



### 朗読「ピーターラビット」おはなしタイム ～日英対訳～

朗読:たんぽぽ絵本



ポターが作ったピーターラビットの絵本シリーズは、絵が美しいだけでなく、おはなしの言葉の美しさをも追求したものでした。そこで、原文の美しさを知つてもらおうと、日本語と英語の対訳による朗読会を行いました。2タイトルずつ2日間、それぞれコカリナの調べを交えながらの会となりました。



### 絵本よみきかせ

展覧会の会期中、毎週日曜日には読み聞かせボランティア「絵本を楽しむ会」の皆さんによる絵本の読み聞かせをおこない、好評でした。写真はBSNアナウンサーによる「キッズプロジェクト」の風景です。

### キャラクターパネル／絵本コーナー／ ぬりえコーナー／ゲームコーナー

ピアトリクス・ポター展では、展示以外になごみのコーナーをたくさん設けました。これ以外にも撮影コーナーやアニメーションコーナーも、親子で、家族で、お友だち同士で……みんなで楽しめる美術館でありたいものです。



## ▶岩合光昭写真展～ねこ～

### ギャラリートーク& サイン会

展覧会初日と2日目に、岩合さんによるギャラリートークとサイン会を開催し、大勢のお客様が参加しました。岩合さんは作品を前にして、撮影時のエピソードや



苦労話、猫に対する熱い思いなどを笑いを交えながら存分に語ってくださいました。またサイン会では、一人ひとりにかわいい猫のイラストの入ったサインを丁寧に書いてくださり、笑顔あふれるイベントとなりました。



## ▶物語の絵画

### ギャラリートーク(対話型鑑賞)の実施



これまで学校団体の皆さんに行ってきた作品解説とは別に、新たな試みとして、学芸員が児童・生徒の皆さんとの対話の中で鑑賞を深めていくギャラリートーク(対話型鑑賞)を行いました。作品を前に意見を交換し合い、想像を広げていくことで、作品のあらたな魅力や奥深さを発見していただくことができたようです。また、学芸員が学校に向いて出品作品についてお話しする「出張授業」も行いました。



### セルフガイドについて

神話や歴史を主題にした、少し「難しそうな」作品をより身近に感じていただくため、8点の出品作品について「セルフガイド」を作りました。簡単な問い合わせやクイズをきっかけに、作品をじっくり見ていただくことができました。

## ▶彫刻家・斎内佐斗司展

### せんとくん撮影会

大人気で全国を忙しく飛び回っているせんとくんに遠路奈良からおいでいただきました。来館者に愛嬌を振りまき、一緒に撮影ポーズを決めるせんとくん。狙って来館したコアなファンも、知らずに見に来てびっくりした飛び入り参加のお客様も、皆さん笑顔が一杯！



### 斎内佐斗司氏講演会・ 平成伎楽団パフォーマンス



展示室内を会場に、作品の隣りで作者から直接話しを伺える趣向です。斎内さんは、柔らかな語り口で制作のエピソードや平成伎楽団の意義など語ってくださいました。引き続き、平成伎楽団が生出演。打楽器の音が会場内に響き、時にユーモラスに、時に激しく動き回る演者たちの魅力に引き込まれ、あつという間に時間が過ぎました。作者の意図する現代の「伎楽」の楽しさがよくわかりました。



### 踊ってみよう 着てみよう あなたも平成伎楽団

斎内さんの好意により、第二部の平成伎楽団のコーナーで作品と一緒に撮影が許可されました。このイベントでは、実際に衣装と面を身につけて体験してもらいました。伝統的な乾漆技法による面は、想像以上の軽さ。衣装を着て鏡を見ると、気分はすっかり「平成伎楽団」で思わずポーズが出てしまう方も。小さな子が面をつけるととても可愛らしく、身に着ける人によって雰囲気が全く変わってしまうことは大きな発見でした。



# 2011年度の所蔵品展のご紹介

新潟県立近代美術館と万代島美術館で所蔵している6,000点を越える作品の中から、テーマを設けて新たな切り口で作品を紹介します。

所蔵品展の観覧料:一般／310円(250円)、大学生・高校生／150円(120円)、中学生・小学生／無料

※( )内は有料20名様以上の団体料金。※障害者手帳・療育手帳をお持ちの方の観覧料は無料です。

2011年3月5日㈯- 4月10日㈰

## 画家のまなざし

スケッチ、構想、そして作品



美術作品はどういう過程を経て完成するのでしょうか。画家が構想を練り、試行錯誤を重ねる過程で生まれた構想メモやスケッチ、習作、下絵などには、画家の意図や想い、情熱が透けて見えます。

本展では、所蔵品の中から、日本画を中心に、スケッチや下絵類と完成した本作品を並列して展示し、作品制作の過程と画家の個性を際だたせようとするものです。

岩田正巳《夢の姫君》1954年



佐伯祐三《広告塔》1927年

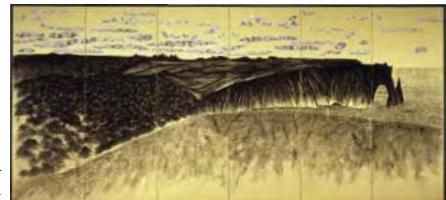
## 異国憧憬 ～あこがれの風景～

海を越えた遠い異国の風景は、多くの画家たちを魅了してきました。そして画家たちは留学や取材旅行へ行き、異国の自然や町並み、人々の暮らしを実際に描きとどめできました。本展では、パリやイタリアをはじめとするヨーロッパ各地や中国、南米などを舞台に描かれた日本画や油彩画を展示します。画家の視点から見た異国の姿を通して、世界各地を旅してみませんか。



八田哲《夏のカシュガル》  
1988年

平松礼二  
(ノルマンディ墨色(エトルタ))  
1999年



描かれているのはフランス・ノルマンディ地方のエトルタという地です。切り立った断崖や奇岩で有名なエトルタは、クールベやモネはじめとする画家たちが数多く訪れ、絵に描いてきました。平松礼二(1941-)は、「ジャボニスムシリーズ」とよばれる作品群を制作し、日本画に印象派の世界を取り入れることで新しい日本画の在り方を模索しました。本作はその「ジャボニスムシリーズ」の1点です。絹地の金地屏風に墨と胡粉を使って描かれた風景は、油彩画とは違った不思議な世界を創りだしています。



## サポートメンバーの活動紹介

新潟県立万代島美術館では、平成22年度から「サポートメンバー」と称してボランティア組織を立ち上げました。まだまだ立ち上がつたばかりで手探りで活動中ですが、ギャラリートークの体験や、企画展「岩合光昭写真展～ねこ～」でのイベント「集まれ! うちのネコ」の実施などで活躍していただきました。

平成23年度の活動には、これまでの展覧会のイベント企画に加え、資料整理なども加えていきます。美術館の活動に興味のある方、まだ募集中です!



## 新潟県立近代美術館の企画展



〒940-2083 新潟県長岡市千秋3-278-14  
TEL: 0258-28-4111(代表)  
<http://www.lalanel.gr.jp/kinbi/>

【開館時間】午前9時～午後5時(観覧券販売は午後4時30分まで)

【休館日】月曜(ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館)。年末年始、臨時休館あり。

●県内コレクターによる 秘蔵の日本画名品展 4月23日(土)～6月5日(日)

●いわさきちひろ展 ～子どものしあわせを願って～ 7月23日(土)～8月28日(日)

●美の軌跡 一デューラーから中村彝まで 前川誠郎の美学 9月3日(土)～10月10日(月・祝)

●借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展 11月3日(木)～2012年1月15日(日)

●びじゅつのあそびば 2012年2月28日(火)～4月15日(日)

## 新潟県立万代島美術館

The Niigata Bandaijima Art Museum

〒950-0078

新潟市中央区万代島5-1 朱鷺メッセ内 万代島ビル5F

TEL: 025-290-6655 FAX: 025-249-7577

URL: <http://www.lalanel.gr.jp/banbi/>

## HOW TO ACCESS



新潟県立万代島美術館は、新潟市を貫く信濃川の河口にある複合施設「朱鷺メッセ」の中、万代島ビル(ホテル日航新潟と同じ建物です)の5階にあります。

新潟駅から

- バス…………約15分 (万代橋バス停より「佐渡汽船」または「新潟市觀光循環バス」に乗り、朱鷺メッセにて下車。)
- タクシー…………約8分
- 徒歩…………約25分
- 水上バス…………約20分
- タクシー…………約20分

信濃川ウォーターシャトル(水上バス)

- 新潟ふるさと村から…………約50分
- 新潟市歴史博物館から…………約5分

### 開館時間

午前10時～午後6時(観覧券販売は閉館30分前まで)  
藤城清治展のみ、会期中の金曜日は8時まで

### 休館日

月曜(月曜が祝日の場合は開館し、翌日が休館)、年末年始、展示替期間  
展覧会により異なる場合がございますので、  
展覧会ごとにご確認ください。

### 観覧料免除

新潟県内の高等学校・特別支援学校が、教育活動として美術館に団体引率をすることにより、観覧料が免除されます。美術の授業、社会科見学、遠足などさまざまな形でご利用いただけます。